2　人口の基本的及び社会的属性

(1)　男女別人口

総人口を男女別にみると，今回は前回に比べて男子が61,154人（増加率4.5%），女子が59,223人（同 4.3%）それぞれ増加して，男子 1,419,117人，女子 1,426,265人となったため，この結果，性比（女子 100人に対する男子の割合）は99.5となり，前回より0.2ポイント上昇している（第1表）。

性比を県内5地域別にみると，鹿行地域と県南地域が 100.9と最も高く，以下，県西地域（99.8），県北地域（99.1），県央地域（96.6）の順になっている（第2表）。

鹿行地域では，全12町村のうち鹿島町（107.9）を筆頭に神栖町（104.8）及び波崎町（101.0）の鹿島郡南部3町が 100.0を超えて（男子が女子より多い）いる。県南地域では，県内で最も高いつくば市（109.0）以下7市町村が100.0を超えており，人口増加率の高い市町村とほぼ一致している。県西地域でも，7市町村が 100.0を超えているが，他4地域に比べて，最も高い市町村（総和町106.2)と最も低い市町村（協和町96.9）との差が一番小さい。県北地域では，全18市町村のうち4市村が100.0を超えているが94.5未満も5地域中最も多い3市町村を数えている。県央地域は性比が5地域中最も低く100.0を超えるのは15市町村のうち3町村となっている(表－11)。

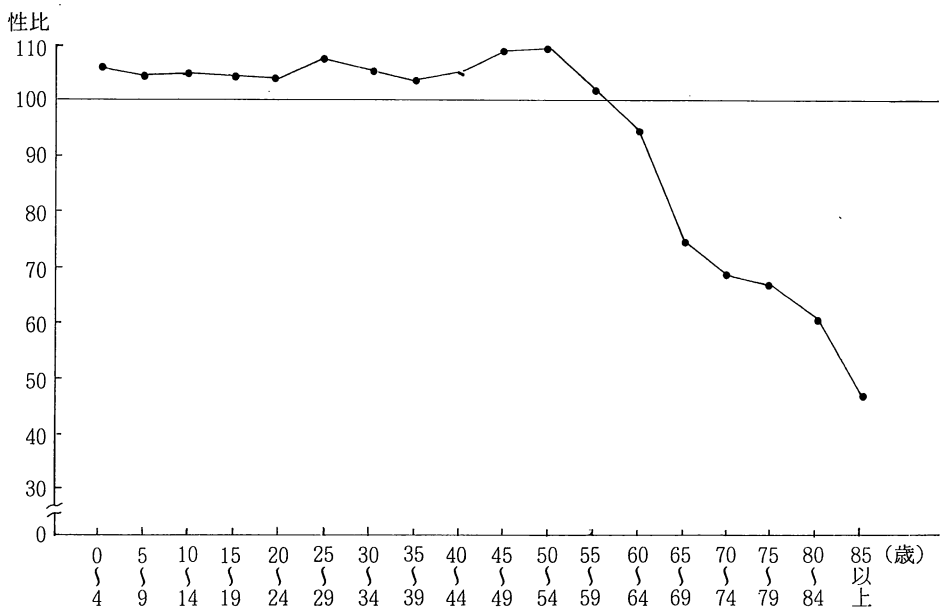
表－11　市町村別性比状況

性　比	県北地域 (99.1)	県央地域 (96.6)	鹿行地域 (100.0)	県南地域 (100.9)	県西地域 (99.8)
110.0未満			鹿島町 (107.9)	つくば市 (109.0)	
107.5未満		小川町 (107.0)		千代田村 (105.8)	総和町 (106.2)
105.0未満	勝田市 (104.1) 東海村 (102.5)		神栖町 (104.8)	美浦村 (103.7) 竜ケ崎市 (102.6)	
102.5未満	日立市 (101.4) 美和村 (100.2)	七会村 (100.8) 内原町 (100.5)	波崎町 (101.0)	阿見町 (101.6) 守谷町 (101.4) 牛久市 (100.3)	猿島町 (101.9) 岩井市 (101.8) 五霞村 (101.6) 下館市 (100.7) 明野町 (100.4) 境　町 (100.1)
100.0未満		茨城町 (99.9)	大洋村 (99.7)	玉里村 (99.6) 土浦市 (99.6)	三和町 (99.7)
99.5					下妻市 (99.5)
99.5未満	里美村 (98.3) 北茨城市 (97.2)	岩間町 (97.7) 美野里町 (97.5) 友部町 (97.2)	北浦村 (99.2) 大野村 (98.6) 鉾田町 (98.0) 麻生町 (97.9) 玉造町 (97.3) 牛堀町 (97.0)	取手市 (99.1) 出島村 (99.0) 新治村 (98.4) 江戸崎町 (98.0) 伊奈町 (98.0) 茎崎町 (97.9) 新利根村 (97.9) 八郷町 (97.3) 河内村 (97.0)	石下町 (99.4) 大和村 (99.0) 結城市 (98.5) 八千代町 (98.4) 千代川村 (98.3) 関城町 (98.3) 古河市 (98.0) 水海道市 (97.2)
97.0未満	高萩市 (96.9) 山方町 (96.9) 那珂町 (96.2) 緒川村 (95.4) 那珂湊市 (95.1) 大子町 (95.0) 水府村 (95.0) 十王町 (94.9) 大宮町 (94.6)	常澄村 (96.8) 御前山村 (96.2) 大洗町 (95.6) 水戸市 (95.5) 常北町 (95.5) 岩瀬町 (95.0)	旭　村 (96.2) 潮来町 (95.8)	東　村 (96.9) 石岡市 (96.8) 谷和原村 (96.8) 藤代町 (96.3) 桜川村 (95.4) 利根町 (94.9)	真壁町 (96.9) 協和町 (96.9)
94.5未満	常陸太田市 (94.0) 金砂郷村 (92.7) 瓜連町 (91.3)	笠間市 (94.0) 桂　村 (93.6)			

注）茨城県の性比は99.5

また，これを年齢５歳階級別にみると，０～４歳から40～44歳までは25～29歳(107.5) を除き105.0前後で推移しているが,45 ～49歳（109.4）及び50～54歳（109.5）で最も高くなった後，年齢階級が上がるごとに低下し，85歳以上では最も低い46.8となっている（図－５）。

図－５　年齢（５歳階級）別性比 －茨城県－

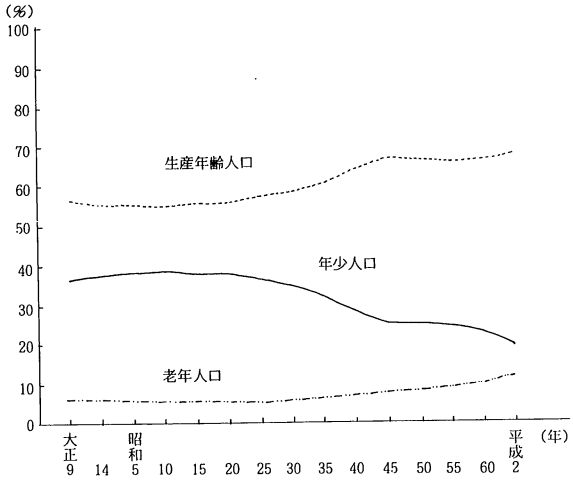


(2)　年齢別人口

総人口を年齢３区分別にみると，年少（０～14歳）人口が 559,033人，生産年齢（15～64歳）人口が 1,943,837人，老年（65歳以上）人口が 338,799人となり，総人口に占める割合は，年少人口19.6%，生産年齢人口68.3%，老年人口11.9%と，前回より年少人口が 3.4ポイント低下した一方で，老年人口が 1.7ポイント上昇した（第３表)。

この割合の推移を昭和25年からみると，年少人口は一貫して低下し続け，昭和40年に 4.6ポイント，また昭和45年には3.3ポイントそれぞれ前回より低下したのが目立つが，今回も3.4ポイント低下し初めて20.0%を下回った。生産年齢人口はこれとは逆に，昭和40年に 4.0ポイント，また昭和45年には 2.6ポイントそれぞれ前回より上昇したものの，その後昭和50年及び55年にはいずれも前回を下回り，昭和60年から再び上昇に転じて，今回も前回（昭和60年）より 1.6ポイント上昇した。老年人口は年少人口とは正反対に，一貫して上昇しており，昭和55年までは各回とも微増（0.5～0.8ポイント）を続けていたが，前回は1.0ポイント上昇して初めて10.0%を超え，今回はさらに1.7ポイント上昇した（第３表，図－６)。

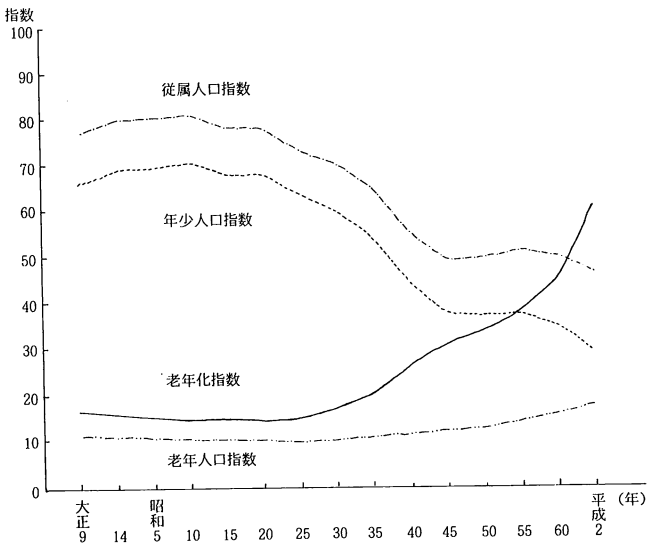
図－6　年齢（3区分）別人口割合の推移(大正9年～平成2年）－茨城県－



注）昭和20年は11月1日現在の数え年による人口調査であり，年齢3区分は1～15歳，16～65歳，66歳以上。

総人口の年齢構成の変化を今度は昭和25年以降の各指数の推移から追うと，従属人口指数（生産年齢人口に対する年少及び老年人口の割合）は，毎回急激な低下を示し，昭和45年には50.0を下回るまでになったが，昭和50年及び55年に上昇して再び50.0を超えたものの，前回から再度低下に転じ，今回は前回比3.6ポイント低下の46.2とこれまでで最も低い数値になった。また，老年化指数（年少人口に対する老年人口の割合）は，一貫して上昇しており，昭和45年まではそのペースが加速し，これはその後の10年間にはやや鈍化したが，前回（昭和55年～60年）はこれまでで最高の上昇幅（6.8ポイント）を示し，今回（昭和60年～平成2年）はさらにその約2.4倍の上昇幅（16.2ポイント）で60.6となった（第3表，図－7）。

図－7　年齢構成指数の推移(大正9年～平成2年）－茨城県－

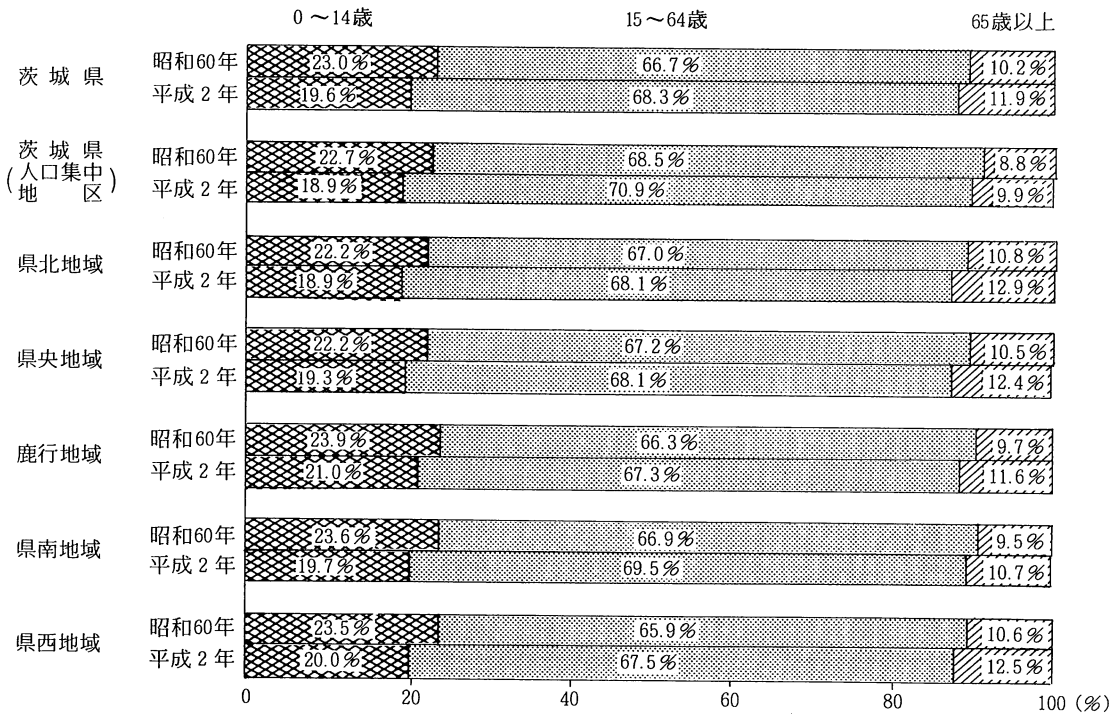


注）昭和20年は11月1日現在の数え年による人口調査であり，年齢3区分は1～15歳，16～65歳，66歳以上。

人口集中地区では，年少人口割合が18.9％（前回比3.8ポイントの低下），生産年齢人口割合が70.9％（同2.4ポイントの上昇），老年人口割合が9.9％（同1.1ポイントの上昇）と，県（全域）平均に比べて年少人口割合及び老年人口割合が低く，生産年齢人口割合が高くなっている。
この結果，従属人口指数が40.7と県（全域）平均より 5.5ポイントも低くなっている。また，老年人口割合が県（全域）平均より2.0ポイントも低いため，老年化指数も県（全域）平均を8.1ポイント下回っている（第４表，図－８）。

次に，県内５地域別に年齢３区分別人口割合をみると，年少人口割合では鹿行地域が21.0％で最も高く，以下,県西地域（20.0％），県南地域（19.7％），県央地域（19.3％），県北地域（18.9％）の順で，全ての地域が前回に比べて低下（2.9～3.9ポイント）しており，また，前回は全ての地域が20.0％を超えていたが，今回は鹿行地域及び県西地域以外は20.0％を下回っている。生産年齢人口割合では，県南地域が69.5％で最も高く，以下,県北地域（68.1％），県央地域（68.1％），県西地域（67.5％），鹿行地域（67.3％）の順で，年少人口割合とは逆に，５地域とも前回に比べて上昇している。老年人口割合では，最も高いのが県北地域（12.9％）で，以下，県西地域（12.5％），県央地域（12.4％），鹿行地域（11.6％），県南地域（10.7％）の順となっており，５地域とも前回に比べ上昇し，また，前回は３地域が10.0％を超えていたが，今回は全ての地域が10.0％を超えている（第４表，図－８）。

図－８　県，地域，年齢（３区分）別人口割合（昭和60年，平成２年）



県内５地域の年齢構成指数をみると，従属人口指数は，県内地域（43.8）のみ県平均（46.2）を下回っており，老年化指数は，鹿行地域（55.5）及び県内地域（53.9）が県平均（60.6）より低く60.0を下回っている（第４表）。

続いて，市町村別に年齢３区分別人口割合をみると，生産年齢人口割合の低い10市町村は老年人口割合の高い10市町村と全く同じであり，また，老年人口割合では，上位９市町村までが20.0％を超えている。さらに，最も高い市町村と最も低い市町村との差は，年少人口割合では 9.6ポイント，生産年齢人口割合では12.3ポイント，老年人口割合では15.7ポイントとなっている（表－12，表－13）。

表－12　年齢（３区分）別人口割合の高い市町村

年少人口割合

順位	市町村名	割合(%)
1	守谷町	25.1
2	三和町	24.0
3	鹿島町	23.0
4	茎崎町	22.6
5	神栖町	22.5
6	利根町	21.7
7	千代田村	21.0
8	総和町	21.0
9	八千代町	20.9
10	牛久市	20.8

生産年齢人口割合

順位	市町村名	割合(%)
1	取手市	72.7
2	勝田市	71.2
3	東海村	71.1
4	古河市	71.0
5	総和町	70.9
6	土浦市	70.8
7	牛久市	70.8
8	日立市	70.4
9	阿見町	70.3
10	千代田村	70.0

老年人口割合

順位	市町村名	割合(%)
1	緒川村	23.2
2	水府村	23.0
3	里美村	22.0
4	山方町	21.9
5	金砂郷村	21.8
6	御前山村	21.2
7	美和村	20.8
8	桂村	20.7
9	大子町	20.2
10	七会村	18.8

表－13　年齢（３区分）別人口割合の低い市町村

年少人口割合

順位	市町村名	割合(%)
1	水府村	15.5
2	金砂郷村	15.7
3	河内村	16.2
4	緒川村	16.3
5	山方町	16.6
6	美和村	16.8
7	桂村	16.8
8	里美村	17.2
9	御前山村	17.5
10	桜川村	17.7

生産年齢人口割合

順位	市町村名	割合(%)
1	緒川村	60.4
2	里美村	60.8
3	御前山村	61.2
4	水府村	61.5
5	山方町	61.5
6	七会村	61.7
7	大子町	62.0
8	美和村	62.4
9	金砂郷村	62.5
10	桂村	62.5

老年人口割合

順位	市町村名	割合(%)
1	鹿島町	7.5
2	取手市	7.8
3	勝田市	7.8
4	茎崎町	7.8
5	神栖町	7.8
6	守谷町	8.0
7	総和町	8.2
8	牛久市	8.3
9	千代田村	8.9
10	三和町	9.4

年齢構成指数では，従属人口指数の高い10市町村は老年人口割合の高い10市町村と一致しており，老年化指数の低い10市町村は老年人口割合の低い10市町村と一致している。さらに，従属人口指数の低い市町村は生産年齢人口割合の高い市町村とほぼ一致し，また，老年化指数をみると，上位11市町村（第11位は桜川村100.3）までが100.0を超えており，これらの市町村では老年人口が年少人口より多いことを示している（第4表，表－14，表－15）。

表－14　年齢構成指数の高い市町村

年少人口指数

順位	市町村名	指　数
1	守谷町	37.5
2	三和町	36.0
3	鹿島町	33.1
4	旭　村	32.8
5	大和村	32.8
6	茎崎町	32.4
7	神栖町	32.4
8	八千代町	32.4
9	北浦村	32.1
10	七会村	31.6

注）県平均 28.8

老年人口指数

順位	市町村名	指　数
1	緒川村	38.4
2	水府村	37.4
3	里美村	36.1
4	山方町	35.6
5	金砂郷村	34.9
6	御前山村	34.7
7	美和村	33.4
8	桂　村	33.2
9	大子町	32.6
10	七会村	30.5

注）県平均 17.4

従属人口指数

順位	市町村名	指　数
1	緒川村	65.5
2	里美村	64.5
3	御前山村	63.3
4	水府村	62.6
5	山方町	62.6
6	七会村	62.1
7	大子町	61.3
8	美和村	60.2
9	金砂郷村	60.1
10	桂　村	60.0

注）県平均 46.2

老年化指数

順位	市町村名	指　数
1	水府村	148.0
2	緒川村	142.2
3	金砂郷村	138.4
4	山方町	131.6
5	里美村	127.4
6	美和村	124.4
7	桂　村	123.7
8	御前山村	121.4
9	大子町	113.6
10	河内村	102.7

注）県平均 60.6

表－15　年齢構成指数の低い市町村

年少人口指数

順位	市町村名	指　数
1	河内村	24.0
2	金砂郷村	25.2
3	水府村	25.3
4	古河市	25.3
5	日立市	25.8
6	土浦市	26.2
7	内原町	26.5
8	那珂湊市	26.5
9	大洗町	26.7
10	取手市	26.7

注）県平均 28.8

老年人口指数

順位	市町村名	指　数
1	取手市	10.7
2	鹿島町	10.7
3	勝田市	10.9
4	茎崎町	11.2
5	神栖町	11.3
6	総和町	11.5
7	牛久市	11.7
8	守谷町	11.9
9	千代田村	12.8
10	藤代町	13.6

注）県平均 17.4

従属人口指数

順位	市町村名	指　数
1	取手市	37.4
2	勝田市	40.0
3	東海村	40.7
4	古河市	40.9
5	土浦市	40.9
6	総和町	41.1
7	牛久市	41.2
8	日立市	42.0
9	阿見町	42.3
10	つくば市	42.4

注）県平均 46.2

老年化指数

順位	市町村名	指　数
1	守谷町	31.8
2	鹿島町	32.5
3	茎崎町	34.5
4	神栖町	34.8
5	勝田市	37.5
6	総和町	39.0
7	三和町	39.1
8	牛久市	39.7
9	取手市	39.9
10	千代川村	42.6

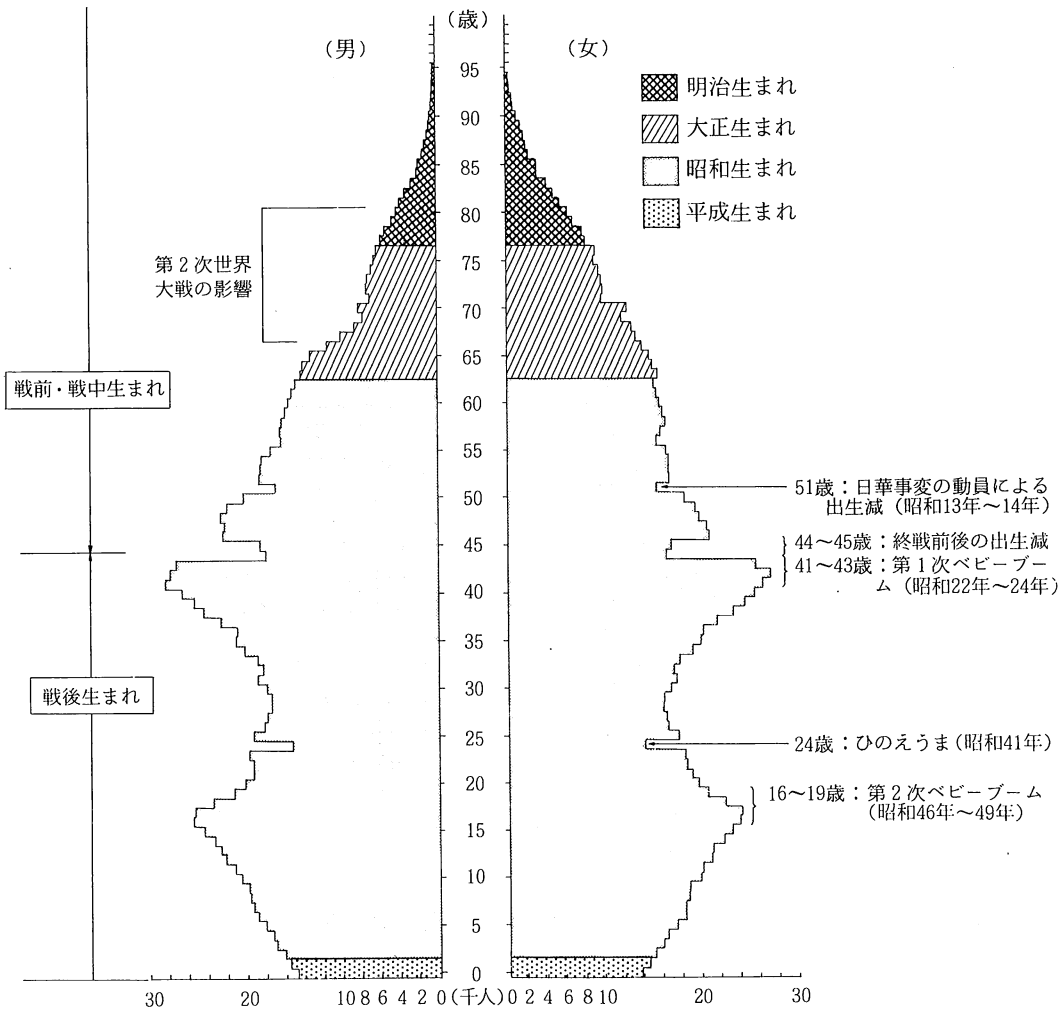
注）県平均 60.6

図－9は，茨城県の人口ピラミッドであるが，最も高い山は昭和22年～24年の第1次ベビーブーム世代（41歳～43歳）で，昭和46年～49年の第2次ベビーブーム世代（16歳～19歳）がこれに次ぎ，戦時下に出産を奨励された影響で46歳～49歳も高くなっている。これとは逆に，昭和41年（丙午）に生まれた24歳や終戦の直前及び直後に生まれた44歳～45歳は前後の年齢に比べて極端

に低く，日華事変の動員による出生減（昭和13年～14年）のため51歳も同様に低い。また，男子の67歳～80歳は女子の同年齢に比べて著しく少ないが，これは第２次世界大戦の影響も大きい（第５表）。

生まれた年の元号別では，昭和(1927年～1988年とする)生まれが 2,414,810人（男 1,235,294人，女 1,179,516人）と最も多く，以下，大正(1913年～1926年とする)生まれの 280,340人（男 118,748人，女 161,592人），明治(1868年～1912年とする)生まれの 87,679人（男 32,300人，女 55,379人），平成（1989年以降とする）生まれの 58,840人（男 30,290人，女 28,550人）の順となっており，総人口に占める割合は，昭和生まれが84.9%，大正生まれが 9.9%，明治生まれが 3.1%，平成生まれが2.1%である。

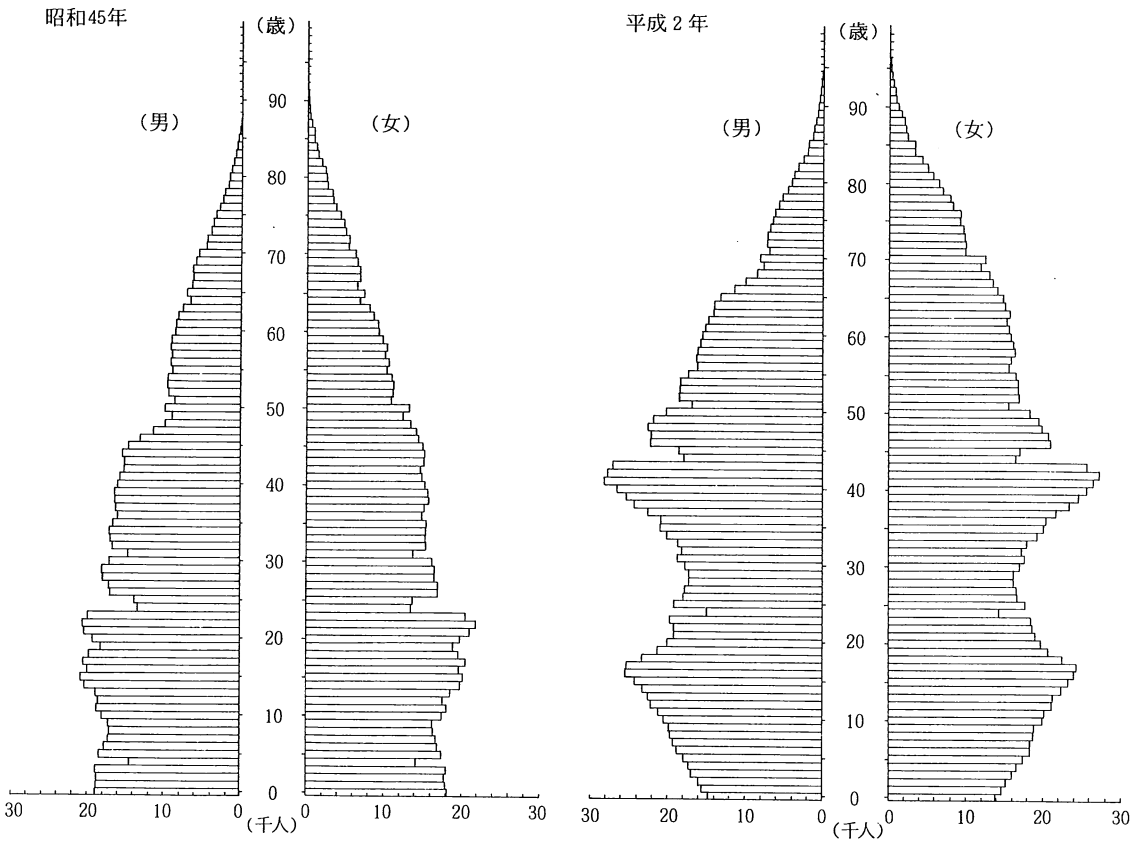
図－９　人口ピラミッド(平成２年) －茨城県－



また，戦後生まれは 1,806,095人で，総人口の63.5%を占め，戦前・戦中生まれは 1,035,574人（総人口の36.4%）となっている。

人口ピラミッドを20年前（昭和45年）と比較すると，第２次ベビーブーム世代の後，出生率の低下に伴い，年齢の若いほど人口が減少しているため，ピラミッドは裾がつぼまった形になっている（図－10)。

図－10　人口ピラミッド(昭和45年，平成２年）－茨城県－



(3) 外国人人口

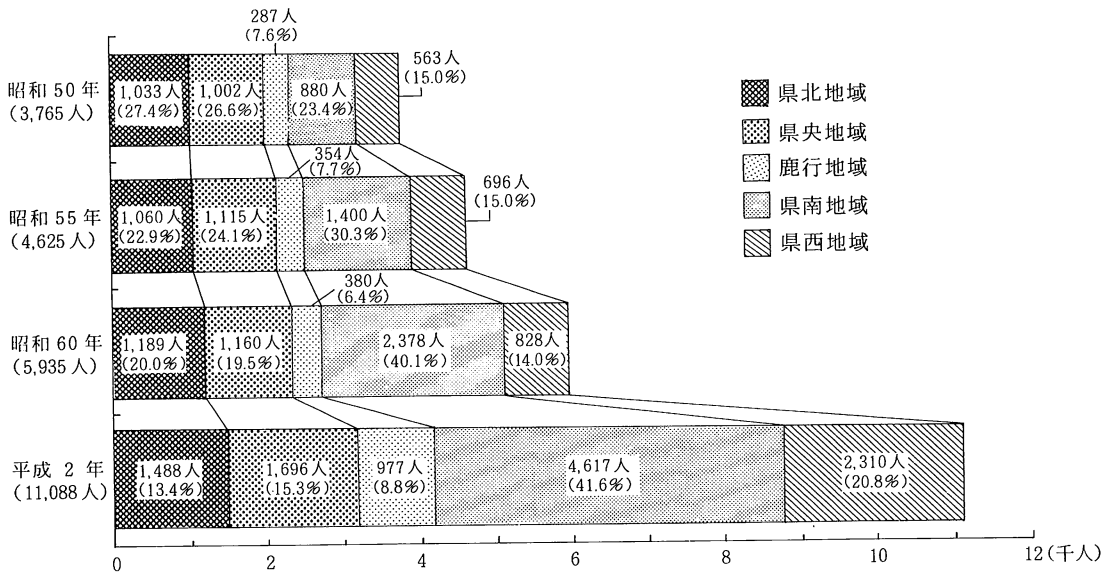
本県に居住する外国人は11,088人となり，昭和50年と比べると，15年間で約３倍（増加率194.5％）になったことになるが，特に今回は，前回に比べ 5,153人（同86.8％）増加し，その伸びは著しい（第７表，図－11）。

国籍別割合の推移をみると，韓国・朝鮮国籍が昭和50年の88.9％から回を追うごとに低下しており，今回は28.7ポイントの低下となっている一方で，中国国籍が2.3％から15.6％へ，また，その他の国籍も毎回上昇しているのが目立つ（図－12）。

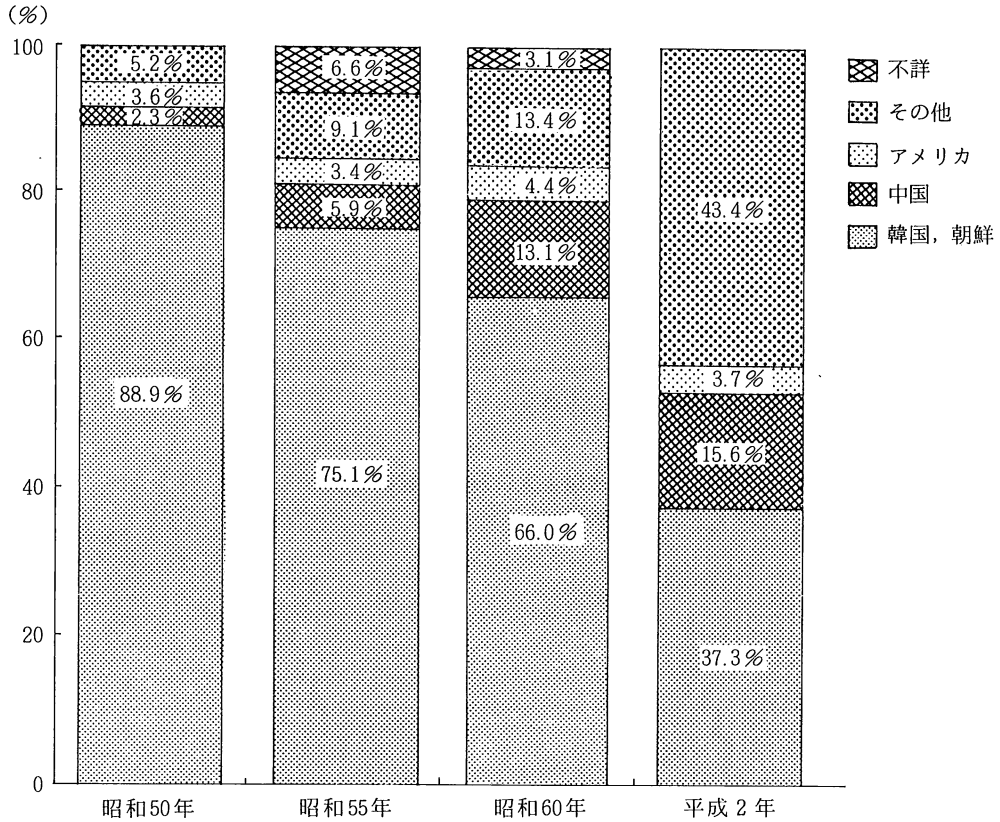
５地域別に前回と比較すると，県北地域が 299人（増加率25.1％），県央地域が536人（同46.2％），鹿行地域が597人（同157.1％），県南地域が2,239人（同94.2％），県西地域が1,482人（同179.0％）増加して，県北地域が 1,488人，県央地域が 1,696人，鹿行地域が 977人，県南地域が4,617人，県西地域が2,310人となった。昭和50年からの推移をみると，県南地域の増加が一番著しく15年間で約５倍になり，今回（4,617人）は県北地域，県央地域及び鹿行地域の合計（4,161人）よりも多くなっている。県西地域はこの５年間の増加率が，他のどの地域よりも高く，この結果全体に占める割合が6.8ポイント上昇した（図－11）。

市町村別では，最も外国人が多いのがつくば市（2,096人）で，以下，水戸市（1,161人），土浦市（786人），日立市（669人），下館市（416人）の順となっており，前回と比較して最も増えたのは，つくば市（増加数 898人），土浦市（同 405人），水戸市（同 320人），結城市（同 257人），下館市（同 234人）の順となっている（第８表）。

図－11　５地域別外国人人口及び割合の推移（昭和50年～平成２年）



図－12　国籍別外国人人口割合の推移（昭和50年～平成２年）－茨城県－



注）昭和50年及び平成２年の場合，国名「不詳」は「その他」に含まれる。

(4)　配偶関係

15歳以上人口の配偶関係をみると男子は 1,130,655人のうち未婚者が 341,187人，その割合（未婚率）は30.2%，有配偶者が 737,192人，その割合（有配偶率）は65.2%，死別者が 30,036人，その割合（死別率）は2.７%，離別者が 16,594人，その割合（離別率）は1.５%となっており，一方，女子は 1,151,981人のうち未婚者が 246,158人（未婚率21.4%），有配偶者が 736,079人（有配偶率63.9%），死別者が 137,383人（死別率11.9%），離別者が 26,957人（離別率2.３%）となっている（第６表，表－16）。

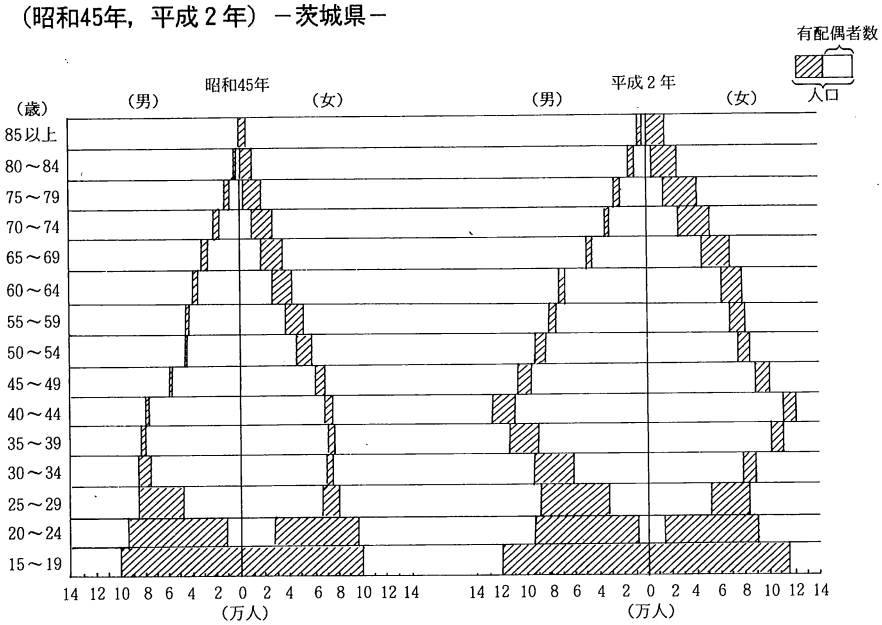
未婚率は男子の方が女子より8.８ポイント高くなっており，これは主として結婚年齢が男子の方が高いことによるためであり，一方，死別率は女子の方が9.２ポイント高く，これは夫婦の年齢差及び女子の平均余命が一般に男子より長いことが主な要因である。また，離別率は女子の方が男子より0.８ポイント高くなっている（表－16）。

表－16　配偶関係，男女別人口（昭和45年，平成２年）－茨城県－

区分		人口		構成比（%）	
		昭和45年	平成２年	昭和45年	平成２年
男	15歳以上人口	781,983	1,130,655	100.0	100.0
	未婚	236,660	341,187	30.3	30.2
	有配偶	514,520	737,192	65.8	65.2
	死別	25,801	30,036	3.3	2.7
	離別	4,860	16,594	0.6	1.5
女	15歳以上人口	827,343	1,151,981	100.0	100.0
	未婚	189,915	246,158	23.0	21.4
	有配偶	515,040	736,079	62.3	63.9
	死別	110,771	137,383	13.4	11.9
	離別	11,542	26,957	1.4	2.3

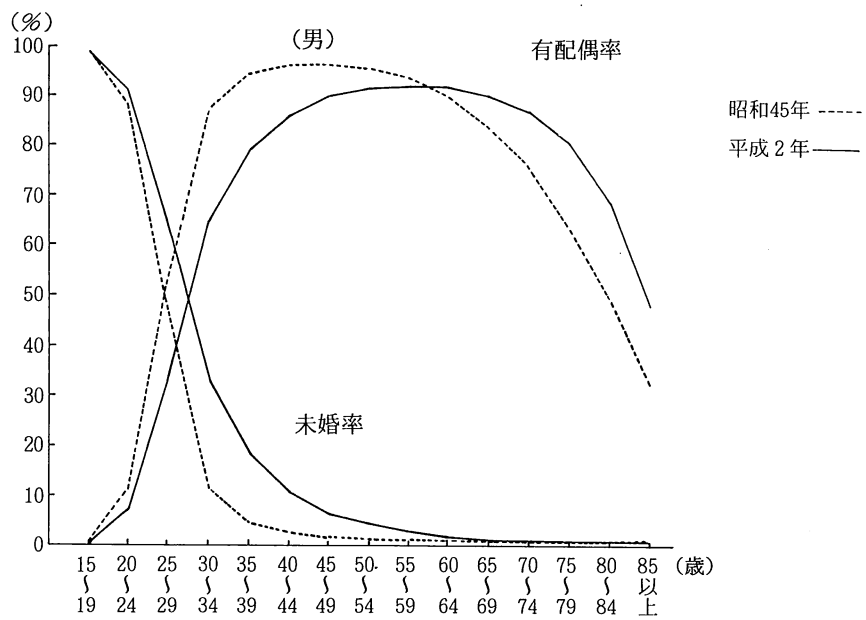
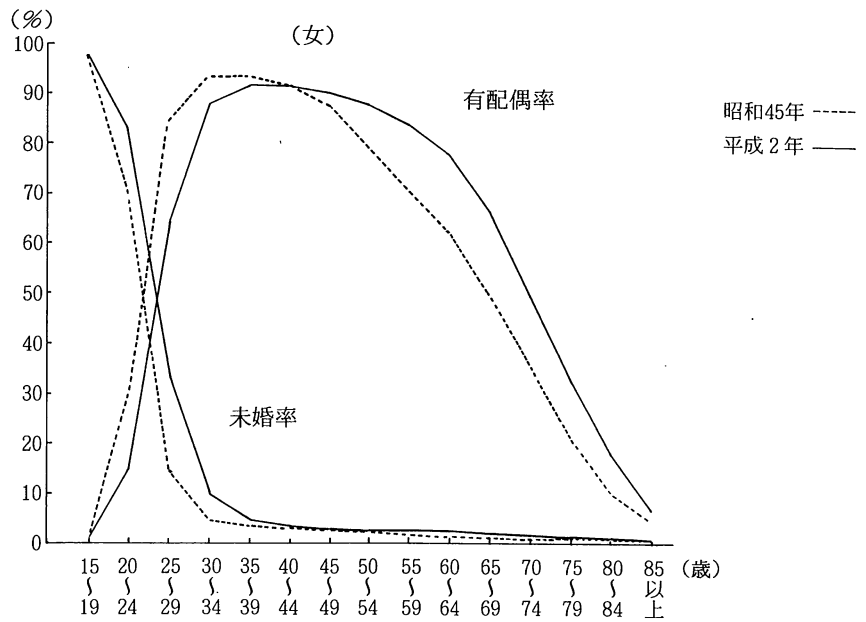
注）15歳以上人口には配偶関係「不詳」を含む。

図－13　年齢（５歳階級），男女別15歳以上人口及び有配偶者数
（昭和45年，平成２年）－茨城県－



注）15歳以上人口には配偶関係「不詳」を含む。

年齢階級別にこれをみてみると，未婚率では男子が15～19歳（98.6%）や20～24歳（91.0%）に比べ25～29歳（63.7%）で急に低下し，40～44歳（10.7%）までこの傾向が続き，45～49歳（6.2%）以降はゆるやかに低下しているが，女子の方は，15～19歳（98.1%）から25～29歳（35.1%）にかけての低下が男子に比べ著しく，男子より若い35～39歳（4.7%）以降にゆるやかに低下している。有配偶率で特徴的なのは，男子が55～59歳（92.0%）でピークに達し，以後低下しているのに対し，女子は35～39歳（91.4%）を頂点に以後低下が始まっている点である（図－14）。

年齢階級別未婚率を20年前（昭和45年）と比較してみると，男子は20～74歳の各年齢階級で上昇しており，特に25～29歳で19.0ポイント，30～34歳で21.5ポイント，35～39歳で14.2ポイント，40～44歳で 8.2ポイント高くなっており，一方，女子は85歳以上を除く全ての年齢階級で上昇しており，特に20～24歳で12.9ポイント，25～29歳で20.6ポイント，30～34歳で 5.2ポイント高くなっている（図－14）。

図－14　男女及び年齢（5歳階級）別未婚率有配偶率　－茨城県－